
駁楽。若草少女

青山 黒美

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

駸楽。若草少女

【Nコード】

N9769T

【作者名】

青山 黒美

【あらすじ】

こんなことを書く俺は、大分、年をくつたな。と感じる。

豆腐売りの自転車、私の横を通り過ぎて、夕日が私の背中にあつて、目の前に出来あがった影を踏もうとか考えて歩いているうちに、家の前を追い越しそうになった。

「ただいま」と私が言つと、「おかえりなさい」と母の声が家の中からする。

私は二階に上がつて、自分の部屋で鏡を見ながら髪をほどいた。制服を脱いで、半袖のＴシャツとジーンズに着替える。もう一度、鏡を見て「眠たいな」と口にした。

「今日、なに？」と、私が母に夕飯を尋ねると「カレー、よ」と返された。私が、「え」と不満をもらすと、「文句言わないの」と叱られた。

父が帰つて来て、「今日は、えらい暑いな」と私に言つたが、私はわざと無視をした。

食事中、テレビからバラエティー番組の笑い声が響いて、父が母に向かつて「今日は暑かったな」と話す。母は「そうね」と言つて私に「お豆腐もあるわよ」とテーブルの上の豆腐を私に近づける。

「いらない」

私が、お風呂から上がると、父はソファで新聞を開きながらテレビのニュースを見て、「おい、また値上がりだつてよ」と振り返つて私に言う。

「へえー」

ドライヤーが見つからない。

「ドライヤー、どこ？」

私は母に聞いた。

「知らないわよ。真紀が何処かにやったんでしょ」

「私、知らない」

「部屋にでも持って行ったんじゃないの？」

「……ん」

あつた、あつた、ありましたよ。

「お母さん、あつたー」私は自分の部屋から大きな声で言った。

髪をとかしながら、ぼんやりとカレンダーを見ると、もうじき私の誕生日が来るらしいことを発見した。まあ、どうでもないか、と欠伸して鼻を擦った。

「お母さん。私の誕生日もうすぐなんだけど」

洗濯物を畳んでいる母に言った。

「え？ そうだっけ」

「そうなんです」

「お父さん、真紀の誕生日だって」

父はカレンダーを見て、「おお、そうだな。旨いもんでも食いに行くか」と私に言う。

「別にいい」

そう答えると、私は部屋に戻ってベッドの上に寝っ転がった。窓から風が入ってきて、私の乾ききっていない髪にあたる。

「今日は疲れたな……」呟いて、ため息ついて、天井を睨で隠して

みた、
私。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9769t/>

駸楽。若草少女

2011年10月8日11時02分発行